

早稲田大学 第一文学部 現代文 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	国語 90 分
特徴・その他	設問の約半数が空欄補充問題。問二より問一の方が、やや難。総合的に見ると、レベルは例年通り。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
(一)	長文読解問題 (伝統と芸術の関係について) (出典『伝統の創造力』 辻井喬 的中)	前半の空欄補充問題は楽だが、問六以下の選択問題は少し迷う問題が多い。この大問は、満点は取りにくい。	やや難
(二)	長文読解問題	設問の半数以上が空欄補充問題だが、難しい問題はない。他も標準的で、この大問は満点を取ることが十分に可能。	やや易

〔総合コメント〕

今年は例年と比較すると、空欄補充問題が多かった。日頃からこの種の問題に慣れていなかった受験生は、少し戸惑ったかもしれない。大問(一)の本文はレベルが高く、一般の受験生にはわかりにくかったと思われる。ただ、『伝統の創造力』は、今年度のヤマだったので、スーパー・早稲田完全攻略などの早大コースの生徒には、その概略を教え、かつ読むように指導した。彼らは良くできていたようである。